

本書の構成と特徴

本書は

I部 溶液・試薬データ編

II部 基本操作編

の2部構成になっています。

I部 溶液・試薬データ編

バイオ実験に必要な溶液・試薬について用途別に章をまとめ、
1種類ずつ解説しています。

<項目>

① 溶液・試薬名 (一般的名称、別名や欧文表記)

② 調製法 調製する溶液・試薬の濃度や量など

溶液・試薬データ編

The screenshot shows a page from the 'Solutions and Reagent Data' section. At the top, it says 'EDTA' and its full name 'ethylenediamine tetraacetic acid / エチレンジアミン四酢酸'. Below that, under 'Preparation Method', it lists '0.5M EDTA (pH=8.0) 500mL'. It includes a chemical structure and the formula C10H14N2O8Na2·2H2O. A 'Point' section notes that EDTA is C10H12N2O8 with a molecular weight of 292.24. Under 'Preparation Materials', it lists 'EDTA 2Na·2H₂O' and 'solid sodium hydroxide' (約10g). It also describes dissolving EDTA powder in water and adding solid sodium hydroxide. A 'Data' section at the bottom states that EDTA is used in pH 7.0~8.0 buffers or chelating reagents to stabilize metal ions. A 'memo' section at the bottom is empty.

① 溶液・試薬名

② 調製法

③ 使用試薬

④ 用意するもの

⑤ 調製手順

⑥ Data

⑦ memo

-
- ③ **使用試薬** 調製に必要な試薬の名称、分子式、分子量など
 - ④ **用意するもの** 調製に必要な溶液・試薬の量や最終濃度
 - ⑤ **調製手順** 溶液・試薬をつくる際の手順
 - ⑥ **Data** 溶液・試薬の用途、特性、保存方法、備考など
 - ⑦ **memo** メモ欄
- **注意** 調製や取り扱いの際に気をつけること
 - **Point** おさえておくべきことや、知っておくと便利なこと、豆知識など
 - **参照** 参照すると役立つ試薬調製法・実験操作とその掲載ページ

※文字の入っていない書き込み用メモページが194ページから挿入されています。必要な溶液・試薬の調製法などのデータ作製にご活用ください。

II部 基本操作編

試薬調製はもちろん、バイオ実験全般にわたって必要な基本操作が解説されています。「I部 溶液・試薬データ編」同様、用途別にまとめられていますので、目的の実験の基本を簡単におさえることができます。

付録と索引

実験を行う際によく使う情報を付録にまとめました。
また、溶液・試薬名は索引から簡単に探すことができます。
ぜひ実験にお役立てください。
